

すめらみこと
天皇、さかひとのおほきみ
酒人女王を思ほす御製歌一首

六二四番

道みちに逢あひて 笑えまししからに 降ふる雪ゆきの 消けなば
消けぬがに 恋こふと云いふ我わぎ妹も

たかやすのおほきみ
高安王、つづ 包める鮒ふなを娘をとめ子こに贈る歌一首

六二五番

沖おき辺へ行き 辺へに行ゆき今いまや 妹いもがため 我わが漁すなれる
藻も伏ふし束つか鮒ふな

やしらのおほきみ
八代女王、すめらみことたてまつ
天皇に献る歌一首

六二六番

君きみにより 言ことの繁しげきを 故郷ふるさとの 明日あす香かの川かはに
みそぎしに行くゆ